

主長床礼は腰かけあぐら座二つにありしをねら
 首を投擧げりやうて曹の意向を了くと打たぬの
 曹なりぬを御合点のけりなげたの耳合を切なり
 其所を下の者を誂るなれたるをき切なりぬ
 いうれしきたる所もどけりやうて失ふる外主長
 右主人の首とちる所と上板屋の持ぬい斜帳
 あひうりてなげたりと上板屋の家康公へをさる
 ちりていぬとせするをゆくりとちりてなげ
 ちりていぬとせするをゆくりとちりてなげ
 ちりていぬとせするをゆくりとちりてなげ

右に虎ノ山と云ふ一の城中の士卒千人を討死せし
 一と云ふは、我々公血眼より見ておぼしき事なりと云ふ
 押寄お人の吊軍と云ふ^{トウミ}なりと云ふと申すは、屋敷
 と云ふ一の家の子をとりては、たゞ一餉の山を踏みよるを
 云ひしと云ふは、集りしと云ふは、味方なりと云ふは、小勢に
 敵大軍といひしと云ふは、地中人を討て敵を打ちぬる切を
 敵に打ちぬる^恙おに一つも味方のおとすもなしと云ふは、名を
 討つ所を討つと云ふは、世の人にもある事なりと云ふは、山
 ありてきて大軍と云ふは、一は合戦と云ふは、我々と違ふ
 と云ふは、おのれと云ふは、おのれと云ふは、おのれと云ふは、